

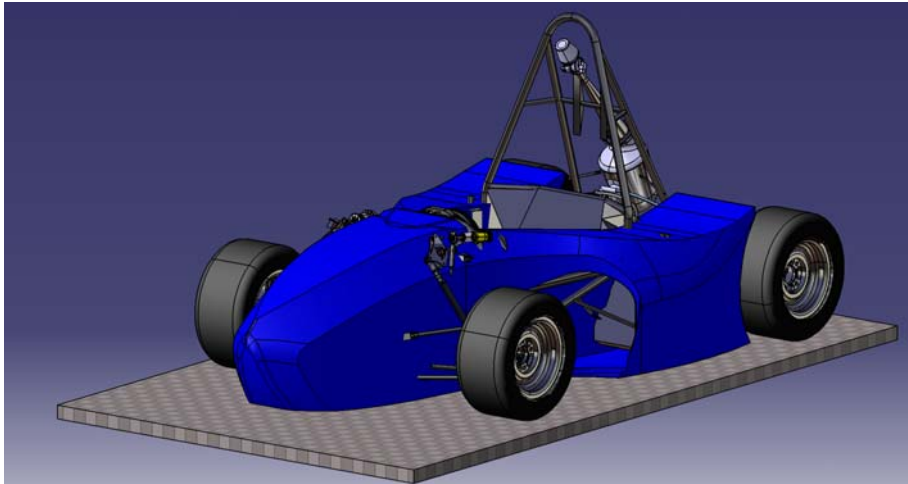


2度目の総合優勝をめざして

グランデルフィーノ

Grandelfino

<http://www.grandelfino.net/>



今回の総合結果・部門賞

- ICV 総合優秀賞 5位
- 総合 5位
- 日本自動車工業会会長賞

Profile チーム紹介・今までの活動

グランデルフィーノは、2006年度に京都工芸繊維大学で「学生と教員の共同プロジェクト」として採用されました。その後2007年より全日本学生フォーミュラ大会に参戦し、活動を行ってきました。活動8年目となる2014年度においては、2度目の総合優勝を目標として1年間活動を続けてきました。

Team-member チームメンバー

川端 千加良 (CP)

太田 稔 (FA1)、射場 大輔 (FA2)、小牧 靖昌 (FA3)、井澤 僚、原野 耀、池田 延晃、平木 康裕、西田 篤史、清水 祐祐、高田 康裕、今西 駿太郎、林 亮夫、中辻 耕太郎、柳田 謙一、永井 優太郎、白井 哲、井上 寛之、守田 健一、赤堀 俊輔、松山 ひかる、徳永 和弥、宮岡 伸行、前田 雄也、稲垣 祐貴、岸本 仁志、竹濱 馨、長谷川 滉一、三宅 貴士、板谷 眞宏、仲川 智貴、石原 悠真、磯部 佳明、上田 雅大、田中 真央、冨井 啓介、中田 侑甫、野瀬 頌平、南 亮丞、吉岡 広平、和田 夏未

Sponsors スポンサーリスト

ITW PP&F Japan、ウミヒラ、AVO/MoTeCJapan、エクセディ、NTN、F.C.C.、OXISO、キノクニエンタープライズ、木下商店、京都帝酸、協和工業、近畿レンタカー、KIK エンジニアリング、サイバネットシステム、ジーエーディー、JFE スチール、スズキ、住友電装、大和歯車、タカタサービス、ダツソー・システムズ、タマディック、丹後機械工業協同組合、タンゴ技研、D.I.D.、THK、東日製作所、東レ・デュボン、日昌製作所、日信工業、NUTEC-JAPAN、ハイレックスコーポレーション、HILLTOP、琵琶湖スポーツランド、PHOENIX's POWER 京都店、富士精密、plus μ、project μ、松田精工、松本金属工業、ミスミ

Presentation プレゼンテーション

マシン名: **GDF-09**

2014年度は、「テクニカル区間最速」をマシンコンセプトとしてGDF-09を設計しました。2013年度車両GDF-08からは大きなパッケージ変更は行わず、限られた箇所のみ変更を行いました。また同時に、大会に向けて練習走行を重ねられるよう4月1日にシェイクダウンを行いました。

このようにマシンの製作、改良を実行してきましたが、新規搭載パーツの製作などが遅れ、大会直前まで車両開発が続いてしまいました。そのため新規搭載パーツの評価に時間が割けず、その結果、デザイン審査での減点や動的審査の点数の伸び悩みに繋がったと考えています。また上記のとおり、シェイクダウンは4月1日に遂行したものの、その後の走行では審査ごとのシミュレーションが不足しており、ドライバーの選定やマシンセットの検討が不十分なまま大会を迎えました。その結果、目標達成には及びませんでした。静的審査に対しては、昨年度の流れを参考に作成を進め、点数の獲得をめざしました。しかしながら、その中で確認漏れや準備不足といった初歩的な原因で減点となってしまい、最終的には静的審査の総合点数も目標から離れたものとなりました。

以上のようにGDF-09は大会において全種目完走・完走こそしたものの、多くの課題を残すこととなりました。これらに対する反省や悔しさをバネに、第13回大会に向けて活動を進めて参ります。

Participation report 参戦レポート

2度目の総合優勝をめざして第12回大会に挑みましたが、結果は昨年度同様総合5位となり、目標を達成することができませんでした。動的審査での点数獲得をめざし車両開発を行ってきましたが、新規搭載パーツの検討やマシンセットの検討等が不十分であったため、最終的には目標点数を獲得できずに終わってしまいました。大会初日の車検では、車検員の方から数か所指摘がありましたが早急に対応し、無事技術車検を初日に通過することができました。

2日目の静的審査において、コスト審査では提出書類に不備があり減点などがありましたが、リアルケースシナリオでは1位を獲得することができ、来年度への自信となりました。その他、プレゼンテーション審査とデザイン審査では準備不足が露呈し、十分な点数が獲得できませんでした。

3日目のアクセラレーション、スキッドパッド、オートクロスについても、タイヤの評価不足やマシンセットとドライビングの検討が不十分であったため、目標としていた順位を獲得することができませんでした。エンデュランスではタイヤの熱だれにより想定していたタイムが刻めず、4位という結果となりました。

目標を達成することができず、チームとしては悔しい結果となってしまいました。それでも3年連続で入賞することができ、チームとしても大きな自信となりました。

最後になりましたが、チームを支えていただきましたスポンサー様、大学関係者様、OBの方々、また大会運営に尽力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。